

第 114 回目の GIS News! です

新暦 6 月の別名を水無月（みなづき）と呼び、由来の一つに「田植が終わって田んぼに水を張る必要のある月」、「田植という大仕事を仕終えた月」などがあるそうです。ここ寒河江では、これからサクランボでまた忙しくなります。

今回は、GIS で利用する「基盤地図」についての最新情報です。



寒河江市の田んぼ

基盤地図情報の活用

GIS（地理情報システム）で重要となるのが地図情報（基盤地図情報）であり、この地図情報を整備することがGIS導入のネックになっています。

そのような中、今国会で成立した「地理空間情報活用推進基本法」は、国が整備する基盤地図情報がインターネット等を利用して無償で提供されることも盛り込まれており、今後の地図情報の利活用に向け大きな転機になると考えられます。また、同法は、地図データと地図上に位置づけられる様々な情報を用いて視覚的な表現や高度な分析を可能にする「地理情報システム（GIS）」と、複数の衛星から信号を受信して、地上の特定の事物の正確な位置を求めることができる「衛星測位（PNT）」を一体的に推進するものです。信頼性の高い情報が安定的に享受できる体制が整備され、新しい産業・サービスの創出や、行政に必要な地図データの一元的整備、豪雨時の洪水シミュレーションなどが可能となります。今後は、地理空間情報活用推進基本計画の策定、地理空間情報の標準化など具体的な施策が進められるようです。

国土地理院ホームページ <http://www.gsi.go.jp/>

リアルタイムな地図情報提供をめざして

地図コンテンツをめぐる市場環境は、カーナビゲーションシステムの普及、インターネット上での地図サービスの多様化、GPS付携帯電話の普及など、めまぐるしい変化を続けております。そうしたなかで、ユーザーの地図情報の「鮮度」向上への期待、要望は非常に大きくなってきております。

昭文社では地図データの修正情報のオブジェクト単位での抽出、空間データベースへの格納、他の空間データベースへの差分配信、そして空間データベースと連携するGISエンジンでその差分データを表示する実験に成功した記事がありましたので紹介いたします。

昭文社、リアルタイム情報を利用可能な地図データの差分更新システムを開発
日経プレスリリース

<http://release.nikkei.co.jp/detail.cfm?relID=160041&lindID=1>

次回の GIS News!

今回は、2007年7月17日発行予定です。よろしくお付き合い下さい！

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 三浦貞美 発行日：2007年6月11日

